

## アトリエ・アルケミスト協働授業 第二週目 6月27日(木)の授業見学

### 「土から水彩絵の具を作る」の見聞

どのように授業が進むか、我々の土の生き物の観察とつながるのか拝見してきました。土の表面は植物や動物に由来するもの（有機物）が主なものであること、これが我々第一週目とつながっています。ただ中身は小学生には難しいと思われる。指導者の腕の見せ所でもある。なぜ土が茶色に見えるのか、話題としていたが、子どもたちには食いつく感じは見られなかった。（有機物の主成分の炭素（黒っぽい）+酸化鉄（関東の火山由来の赤土が主なものでしょう）庭に出て土の表面をさらってきて、紙皿に乗せ、電子レンジでチン。それをふるいにかけて小さい粒子の集まりとする（黒っぽい茶色となる）アラビヤノリの粉小さじ一杯に水小さじ一杯強を混ぜ攪拌。液状のアラビヤノリに粉状の土を混ぜる。黒褐色の絵の具となる。更に同様の作業をいくつかの画材粉と混ぜて絵の具を作成した。これは楽しそうだった。

私も興味をそそられ、白っぽい灰色の粉（陶灰土？）で絵の具を作り、土の絵の具と混ぜてみた。絵の具そのものは薄い茶色が混ざった灰色の感じとなる。これを筆を使って、土の絵の具と、混ぜた絵の具で「へのへのもへじ」を描いてみたが、色の差はほとんど出なかった。茶色である。薄い灰茶いろで描いた字はかすれ気味だったことも考慮に入れると、土をふるいにかけて網の目が粗かったのではないだろうか？液体の中では薄い茶灰色に見えていても紙の上で筆で伸ばすと土の粒子が大きくて混じりきらず、茶色として残り灰色の部分は紙の色と区別がつかなかったのではないだろうか？色紙に描いてみればわかったかもしれない。

絵の具作りは子どもたちにとって、とても楽しそうで、次週に使う。とのことで、キッチンと名前を書いて保管しておられた。

田中K 記

### <アルケミスト、羽田先生からの返事>

ご指摘通り、2回目絵の具作りの講座回はスライドの難易度がたかかったという感想がスタッフ間からもありました。このWS/講座を行う際の課題かと思います。

子どもに順番にスライドを読ませた曜日クラスはうまくいったようです。漢字が読めない低学年の子を高学年がさりげなくフォローするところも含めて自主性が働いた様子でした。

スタッフのスライドへの理解度が大きく関係していた、という感想もみられました。絵画造形教室に来ているだけに、絵の具作りはどの曜日の子どもも楽しんでいた様子でした。

1度目の虫の観察はスライドを見ている時と、実際の観察が始まった時の落差といいますか、すごい温度差があった！とどのクラスの先生方も一様におっしゃっていました。虫が苦手な子も含めて非常によい時間となったと思います。ありがとうございました。

